

組合長就任の挨拶

組合長 楠崎猪太郎

私は今回日本海員組合の組合長として此第一回の月報の紙上に於て始めて諸君に御目に懸る次第でありまして爰に一言の御挨拶を申し上げたいと存じます。

私は嘗て二十六年の間海上生活に身を扮つし其後陸上に於て九年間港灣の行政乃至經營事務に當つて居つたのであります、而して最近三年間は海上保険及海員團體の事務に當つて居つたものであります。

海上生活當初に於きましては親しく諸君の先輩と共に同じ部室に起臥し同じものを喰へ同じ作業を爲て居る間に具さに船内の作業及心得方に就て親切なる教訓を受けた一人であります、此間私はしみじみ海上の労働即ち「フオックスル」生活の真味を味ふことが出来たのであります、其結果として平素諸君の境遇に對し深甚なる同情を表すると同時に諸君先輩の好意と諸君の勤勞に對し日夜感謝の念に燃へて居るものであります。

れども此外に事實上船舶運用の原動力である處の吾人海上労働者の血と汗とを絞つたる此貴き獻身的労働の結果が無かつたならば到底今日の盛況を見ることは不可能であつたに相違ないと思ふのである、此事實は資本家も國家も又一般社會も之を知らない筈はないのである然るにも拘らず今日まで海員の爲めに地位の向上乃至生活の安定を期する上に一として見るべき施設ないのである若し此儘に放任して居つたならば今後と雖何時之を實現せらるべきや殆ど見當さへも付き兼ねるのである、實に歎かばしいことである最早今日は從來の通り其日暮らしの生涯に安んじて居る時代ではない吾人海上労働者の現狀は一小部分を除くの外大多數の者は全く労働者自身が僅に乗船中の生活を繋ぐに止まり家族の扶養は思ひも寄らず一朝負傷疾病若は老年の境遇に陥りたる時は全く路頭に迷ふの外なき窮情にあるのである、我海運の原動力として船内に於て最も多數を占むる吾人海員を斯の如き不健全の地位に置きながら船員の能率増加を期し海運の健全ならんことを期するが如きは實に無理な注文と謂はなければならぬ海員の地位及生活の安定を保證したる上にあらざ

歐米の統計なりとて傳ふる處に依れば陸上労働者の労働生涯二十二年以上なるに引代へ海上労働者の労働生涯は僅に十二年即ち半數にしか過ぎないと謂ふことである、若し之を事實なりとすれば歐米人よりも比較的體質の弱き日本人の海上労働生涯は「ズット」よりも短いかも知れない之に依て之を觀れば海上労働者は陸上の労働者に比し體に二倍の要求を爲ても可いと言ふことになるのである、然ればとて私共は之を楯にとつて二倍の要求をするものでないが吾人の海上労働が如何に懸命の仕事であるかを説明するに足るべき最も有力なる資料である。

陸上の人々が或は物見遊山の樂みを損にし或は深夜家庭にありて安らかに枕の上に眠つて居る間に海上労働者は故山を離れて數十日間の久しきに互り萬里荒涼たる海上に於て或は暴風怒濤に曝されて寒冷肌を迫り或は焦熱地獄とも謂ふべき汽籠の前に立ちて殆ど失神的苦惱を嘗むる等事實上職務の爲めに晝夜を通じて一身を犠牲として居るのである、日本の海運が今日の隆盛を致したる所以のものは一に資本家の經營及國家の施設が其宜しきを得たるに依る關係もありまじやうけ

れば熟練したる即ち能率に富める海員を得ることは絶対に不可能である、從來日本船舶が外國船舶に比し比較的多數の船員を要する所以は此處に基因する問題でないかと思はるゝのである健全なる海員は須らく健全なる地位に置かれなければならぬ。

私共は海運が一の營利事業であつて唯労働者の力ばかりで經營して行かれるものでなく必ず其處に資本家の必要あることを承知して居る又海運が世界各國の競争場裡に角逐するの必要上海員の能率が外國の夫れに比し優勝の地位に立たなければならぬことを承知して居る者である、併しながら其資本家たるや必ず労働者の地位及生活の安定に就て充分の理解ある資本家でないければならぬ盛況當時の利益は悉く資本家の收得に歸し更に備荒の準備を考ふることもなく一朝不況に陥るや生活費の高低さへも考慮するの邊なく家族渡し金を停止して船員家族の生活を脅かし尙且之を顧みざるが如き資本家に對しては充分に吾人の立場を説明して必要の理解を求めなければならぬ。

我海運が島帝國立國の事業であることは何人も異議なき處でなければならぬ隨て吾人海員は海國の干城で